

千葉大学文学部からお知らせ



千葉大学文学部の受験を考えておられる方へ

2016年4月より、文学部は人文学科1学科4コース制に改組します。

これまで千葉大学文学部には、行動科学科、史学科、日本文化学科、国際言語文化学科の4学科が置かれていました。これを人文学科1学科に再編し、その下に行動科学コース、歴史学コース、日本・ユーラシア文化コース、国際言語文化学コースの4コースを置きます。

文学部の新しいあゆみ

いま世界は大きく変動し、必ずしも未来への眺望が明瞭に開けているわけではないのかもしれませんが。この困難な状況の中で、基礎学である人文科学もまた現代社会の課題に応えることを責務として引き受ける必要があります。つまり、現代的、応用的な課題解決に向けて、人文科学もまた変わらなければならないわけです。一方、それと同時に、長い人類の歴史とともに蓄積されてきた過去の知的遺産や、知的探求の方法論を、未来に向けて継承していくことも、人文科学の変わることのない重要な責務です。「人間」とは何か？という問いは、人類の歴史とともにあった古い問いです。私たちの先人もまたこの問いに対して探求を続けてきたわけで、私たちはその成果を未来世代に伝達していかなければなりません。

文学部の挑戦：変わる文学部/変わらない文学部

文学部は新しい1学科体制のもとで、人文科学のいかなる分野を学ぶ場合にも基礎となる幅広い教養を修得するために、共通基礎科目の履修を拡充、強化します。共通基礎科目には、多面的な国際性を涵養するための科目群、地域社会や自身のキャリアを展望するための科目群、人文科学の専

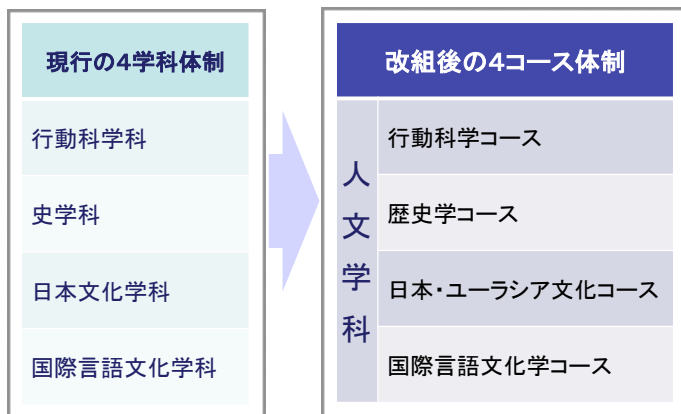
門性を現実の社会に架橋していくための基礎的訓練としてのフィールドワーク、インターンシップなどの実践的・応用的科目群などが新設されます。文学部の学生のみなさんには、これらの新しい共通基礎科目によって、激動する世界にたじろぐことなく向かい合うことのできる確かな知的基盤を獲得して欲しいと願っています。

では、変わらないことは何でしょうか。1学科体制に移行しても、これまでと同様、受験生はあらかじめ学びたい「コース」を選択して受験し、入学した後は必ず自身が選択した「コース」で勉学を続けることが保証されます。これまで設置されていた4学科は、従来の学問体系の中で蓄積されてきた方法論に基づく大きな区分です。したがって、組織改編後においても、従来の4学科の学問体系を継承するコースを設けて、専門性を深めていくことのできる教育課程を用意しています。ただし、希望すれば在学途中において、入学時に選択したコースから別のコースへと移動することも一定の範囲・条件のもとで可能になります。

なお、改組後も個別入試の受験科目等は従来通りであり、変更はありません。入試の詳細については千葉大学のウェブサイトにて確認してください。

新しい文学部へようこそ

新しい文学部の教育体制は、現代社会において求められる幅広い教養と、人文科学の伝統に根ざした深い専門性を両立させ、受験時に選択したコースで確実に学ぶことができる安心と、入学後にコースを再選択できる挑戦とを両立させることができる柔軟な構造です。新しい千葉大学文学部において、みなさんの知的好奇心を徹底的に追求してください。私たちは、そのような知的好奇心に満ちたみなさんを心から歓迎します。



多様な授業と学外実習



国際インターンシップ



自然豊かなキャンパス



文学部の多様な授業形態

授業には講義形式で行われるもののほか、学生のより主体的な参加が求められる演習・実験・実習などがあり、どのコースに進んでも、実験やフィールド調査、発掘調査、図書館・文書館での文献調査、博物館・美術館での参観実習など、教室の講義だけには止まらない多様なかたちの授業が展開されています。また、学年が進み専門性が高まるにつれて、徹底した少人数教育が行われるのも文学部の大きな特徴の一つです。したがって、卒業時まで学問的専門性の基礎をしっかりと身につけることができます。

活発な国際交流

千葉大学では、海外の大学との研究交流・教育交流、外国語教育などに積極的に取り組んでいます。文学部からも、毎年多くの学生が海外の交流協定校に留学しており、2014年度には、ドイツ、フランス、アメリカ、フィンランド、韓国などに学生を派遣しています。留学中に派遣先大学で取得した単位の一部は、帰国後に千葉大学の卒業要件単位に振り替えることができますので、留学した場合でも4年間で卒業することが可能です。また、ロシア、中国などにおいて日本語教育のお手伝いなどをする人文学国際インターンシップを実施しています。

文学部卒業生の進路

進路は、就職と進学に大きく分かれますが、就職を希望する場合にはほとんどの学生が希望通りに就職しています。就職先の業種は、さまざまな民間企業、公務員などあらゆる方面にわたっています。その中でも、毎年一定の割合で、新聞社、通信社や出版社などを含む情報・通信業、教員、国公立大学職員などを含む教育支援などの方面に進んでいることは文学部の卒業生の特徴だと言えるでしょう。公務員に進む比率も相対的に高いのですが、専門性を評価されて文化行政、生涯教育、広報、観光などの方面で活躍している卒業生も多くいます。